

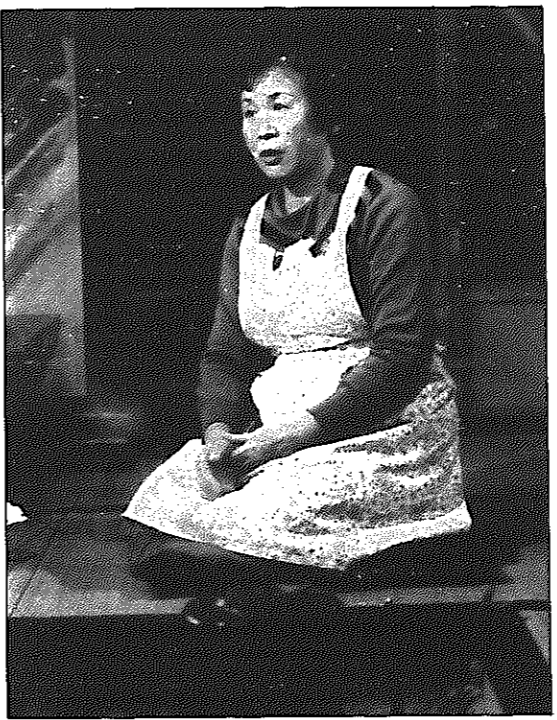
# んぱ

## 雪国の人の知恵が生きてる「のっぺ」

長崎キイさん (庚・農業・56歳)



このほど、地方のいろいろなふりさとの味を紹介しているテレビ番組「ビタミンライフ」の製作班が、長崎キイさん宅を訪れ、のっぺづくりの録画撮りを行いました。昔から伝わる郷土料理は、人の知恵が生かされ、栄養面でもバランスがとれていることから、特に都会では注目を集めているそうです。



「サトイモのとりみが出て大変おいしいですよ」のっぺについてインタビューを受ける長崎さん

お祝いごと、冠婚葬祭のときには必ずつくりますね。「のっぺ」が昔から今に伝えられてきているのは、冬の間でも秋にとれた野菜を使ってつくることができ、そして二、三日とっておけるので、保存食として雪国にとって大変便利なものだったからなのでしょう」と、スタッフのインタビューに答えていました。



「果樹地帯と違って、私たちは稲刈りが終わると収入がなくなってしまう。でも秋インゲンをつくるようになってから、その収入を冬の間、少しずつ使っている。大変助かっています」と長崎さん。ここでも雪国に住む人の知恵が発揮されているようです。

出来た「のっぺ」を食べながら歓談

## 鳥の羽根が空に舞う…ほうび松の子

### 語る人

石高信司さん(七〇)



二月一日号で、八木以志さんの白根小学校校庭の「ほうび松」の記事を拝見しました。私も大正十五年に、白根小学校高等科に半年ほどお世話になったので、この木は今でもなつかしく見えています。昭和二十三年に、中山の鶴巻権三郎さん(故人)が御先祖の百年

### 私の思い出 昔のわが街

忌の記念に、白小のほうび松の枝をさし木したのでとって、二メートル余りの木を本堂の前に植えてくれました。鶴巻さんは「これは天然松といって巨木になる。昔孫悟空がいたずらしてこの木のてっぺんに登ったのを、三蔵法師が呪文を唱えたところ、孫悟空が木からまっさかさまにころげ落ちたので落松とも言う」と話してくれました。

その後、和田文義先生(白井中学校長)当時)におたずねしたところ「あれは落羽松という木です」と教えてくれました。葉がちょうど鳥の羽根のようです。戦後、この辺でも見ることがあるメタセコイアと似ていますが、枝も細く葉も小型で、幹の様子も繊細です。同系統の種類と思われる。生育はメタセコイアほどではありませんが、なかなか生長の早い木ようです。先日測ってみたら目通り直径四十七センチにもなっていました。

八木さんは何度もさし木をしたが成功しなかったと言っておられますが、残念ながらさし木の適期は私も知りません。数年前から杉の実に似た実がなります。



### 白根 人物伝

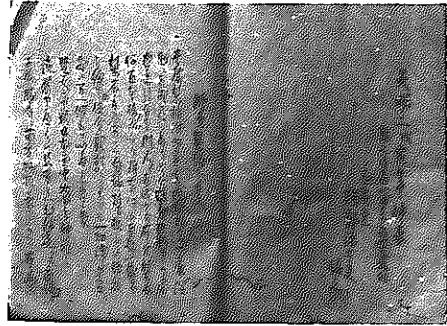
#### ★阿部源太夫

東萱場の阿部源左衛門は、上州地方から晩赤龍という優良な梨を持ち込み、大規模な梨園を経営していたが、その子、源太夫が十三の時に病死した。

それから十数年後、父の遺志を継いで梨を栽培していた源太夫は、関屋の金鉢山のほか白山浦にも十数町歩の梨を栽培し、専ら越中地方へ出荷するようになった。一年の収穫が六百両の巨額に達し、その盛況ぶりは、とうてい今の比ではないという。

当時、梨には病虫害がなく、枝が繁茂するに任せておくと、木の下は日光がさえぎられ、苔が生えて青々として庭園のようで、子供が遊ぶのに最適だったという。

(中蒲原郡誌ほかから要約)



源太夫が天明2年(1782年)に著した「梨栽培の秘鑑」。ここには梨の品種(94種)や、接ぎ木、栽植、肥料、たな仕立て法などの栽培技術が書かれている



「私の思い出 昔のわが街」欄へあなたの思い出の場所を。連絡は企画財政課広報広聴係へ。